# アイヌ文化復興の一大拠点へ
# ウポポイ（民族共生象徴空間）

アイヌ語で「大きな沼」を意味する「ポロト湖」のほとりに、印象的なデザインの施設が建設された※

博物館には美しいアイヌ文様が刻まれた小刀や、首飾り（タマサイ・シトキ）、美しい刺繍が施された民族衣装などを展示

かつて、北海道が蝦夷地と呼ばれていた頃よりもはるか昔から、北の大地で暮らしてきたアイヌ民族。日本人の多くが知らないままできた習慣や世界観・文化を理解し、共に未来へ進むためには？　開業が待たれる北海道初の国立博物館を含むウポポイ（民族共生象徴空間）の奥深い魅力を探る。

※本記事は2020年5月末までに公開されている情報を基に構成しています

## 差別と同化政策による歴史 ようやく開いた未来への扉

2007年9月13日、第61期国際連合総会において、「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が決議された。翌2008年には、北海道洞爺湖サミットが開催されるのとほぼ同時期に、札幌市と沙流郡平取町二風谷（にぶたに）で「先住民族サミット アイヌモシリ2008」が開かれた。この年は国会で「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が採択された年でもある。1899年に制定された、アイヌ民族に対する和人への同化政策「旧土人保護法」から今年で約120年、「アイヌ新法」の可決によって、ようやくアイヌ民族の文化再興の兆しが見えてきた。

現在北海道にはいくつかアイヌの文化を色濃く残す地域がある。阿寒湖アイヌシアターイコロのある阿寒湖アイヌコタンや、地域全体に文化や口伝が残る平取町二風谷。そして今回の舞台となる、白老ポロトコタンのあった白老町もその一つだ。

## ウポポイを構成する3つの柱 豊富な見どころを再確認

新千歳空港から高速道路を経由して約40分。札幌から特急列車で約1時間。アイヌ民族博物館があった場所を含む約9.6haの敷地に、「ウポポイ（民族共生象徴空間）」（以下、ウポポイ）が整備され、一般公開に向けた準備が進められている。「ウポポイ」とは「（おおぜいで）歌うこと」を意味するアイヌ語だが、「象徴空間」とは聞きなれない単語だ。これはウポポイが単なるアイヌ文化の「博物館」の名称ではなく、民族の風習や世界観・自然観を学び、体感できる「空間」の総称であり、「我が国の貴重な文化でありながら存立の危機にあるアイヌ文化を復興・発展させる拠点として、また、我が国が将来に向けて、先住民族の尊厳を尊重し差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていくための象徴（内閣官房アイヌ総合政策室HPより）」となるよう願いを込められた場所であることを示している。以下に具体的なウポポイの3つの機能を紹介する。

### 国立アイヌ民族博物館

アイヌ民族の歴史と文化を、アイヌ民族自身の視点で正しく伝え、新たなアイヌ文化の創造・発展につなげていくというコンセプトの基、「ことば」「世界」「くらし」「歴史」「しごと」「交流」の6つをテーマとした展示を常設。解説は多言語に対応しており、第一言語はカタカナ表記のアイヌ語を採用。音声ガイドでは道内各地方のアイヌ語の方言も反映している。館内3か所にある「探究展示

テンパテンパ」では、上記６つのテーマに対応する体験ユニットを用意。アイヌ民族の生活を追体験することで、より理解を深めることができる。ほかにも代表的な資料が一堂に会するプラザ展示や、様々な切り口でアイヌ文化を紹介する大画面・高精細のシアター、アイヌ工芸品や書籍を取り扱うミュージアムショップや子供向けの絵本・アイヌ文化入門書などを閲覧できるライブラリなどがラインアップ。初めてアイヌ文化に触れる人も、すでに親しんでいる人も、それぞれのレベルに合わせて楽しむことができる。

### 国立民族共生公園

①自然と共生してきたアイヌ文化への理解を深める、②異なる民族が互いに尊重し共生する社会のシンボルとなる空間を形成する、③豊かな自然を活用した憩いの場を提供する。

これらを基本方針に掲げ、アイヌの古式舞踊の観賞やムックリ（口琴）・トンコリ（五弦琴）の演奏体験が楽しめる「体験学習館」や、生活に関わる民具や装具について刺繍や木彫りの製作体験を通じてアイヌ文化が培ってきた技術に触れられる「ものづくり体験」など、五感で楽しめるコンテンツを用意。またオハウ（汁もの）など伝統的な食事も楽しめるほか、アイヌの子供の遊び体験も実施予定だ。

### 慰霊施設

ポロト湖の東にある高台に建立される、研究と称して全国各地に持ち去られたアイヌの人々の遺骨を、関係者の承諾を得たうえで集約し、適切に管理するための施設。

もちろんウポポイの魅力はこれら３つの柱だけではない。夜間営業を行う期間には、夜間プログラム「夜のウポポイ～キロロアン～」と題し、VRやプロジェクションマッピングなどの先端技術と、アイヌの伝統的な物語や神話を組み合わせたコンテンツも予定されており、現代ならではのアプローチでアイヌ文化を体感できる。

## 開業延期も好機ととらえ 安全面とコンテンツを磨く

公益財団法人アイヌ民族文化財団 民族共生象徴空間運営本部 企画広報部誘客広報課長の西條林哉さんは、ウポポイの開業に向けてこう語る。

「誰もが幸せに暮らせる社会を目指すためには、異なる部分を認め合う柔軟な心で共に考えることが大切です。ウポポイを通じてアイヌ文化に触れていただくことで、『文化的多様性を保ちながら共に生きていく想い』を皆さんと共有できる場をつくり上げていきたいですね。またアイヌ文化と一口に言っても、地域ごとに独自性があります。ウポポイがお客様と各地域を結ぶ「橋」となり、文化への興味をきっかけに現地を訪れていただけるよう努めていきたいと思っております。開業は延期となりましたが、ただ座して待つつもりはありません。全国から集まったアイヌと和人が共に力を合わせ、各地域の伝承者の皆様による協力を受けながら、様々な時代のアイヌ文化を伝承・復興するだけでなく、時代に寄り添い変化する新たなアイヌ文化の創造を目指すことも私たちの大切な役割です。その魅力をコンテンツとして磨き上げることはもちろん、安心安全にご利用いただける体制作りのための準備を進めております。皆様とお会いできる日が一日も早く訪れるよう願っておりますので、その日が来た暁にはどうぞ足をお運びください」

アイヌが歩む、アイヌと歩む。歴史に学び未来を創るウポポイの開業を心待ちにしたい。

取材・写真協力／公益財団法人アイヌ民族文化財団（※写真はイメージ）

各地に伝わるアイヌの古式舞踊や儀式を再現する伝統芸能の上演も（写真は熊の霊送りの踊りのイメージ）

伝統的な料理を食べるだけでなく、調理体験プログラムでもアイヌの食文化を体験することができる※

アイヌの創世神話を屋外で投影するプロジェクションマッピングショー「カムイシンフォニア」

ミニ人形劇上演やオリジナル紙芝居の読み聞かせなどで文化を学べる子供向けのプログラムも用意

楽器の演奏体験のほか、彫刻や刺繍などアイヌが伝承してきたもの作りの一端を体験しよう

ウポポイPRキャラクター「トゥレッポん」。アイヌの食文化と関わりの深いオオウバユリ（トゥレプ）の女の子